

強く感じたことは、とにかく全体的によくまとまっているということだった。それは、開学時の建築様式を大事にして、後から作った建築物も同じ様式で建てるという大学の方針にも象徴されているように感じた。

スタンフォード大学では、総勢8名のスタッフの方にご説明いただいた。皆さん、説明の途中で何度も質問する機会をくださったのが嬉しくも苦しい体験だった。とっさに質問はないかと言われて英語が出ず困ったり、施設の素晴ら

しさに圧倒されて日本語さえ浮かばなかったりもした。

誌面の都合で報告できなかったことが多々あるが、Web ページ上でスタッフの報告書や講演記録等の様々な情報が公開されているので、ぜひ一度ご覧いただきたい。そして、私の理解の誤りをご指摘くだされば幸いである。

(やまなか せつこ)

(スタンフォード大学図書館

<http://www-sul.stanford.edu/>)

総合人間学部図書館紹介 —シリーズ「京都大学図書室巡り」

総合人間学部は、京都大学で一番若い学部です。平成4年度までは教養部でしたので、図書館は教養部図書館として教養部生に親しまれていました。しかし、学部となった現在でも総合人間学部図書館は全学の利用者に開かれた図書館であることは変わっていません。入館して本を借り出すための利用証(学生証)は附属図書館と同じものですし、全学共通科目用の参考になる図書等、約5万冊を1階の開架閲覧室で自由に手にとって見られる様に提供しています。

また、1階の開架室にはそのほかに「学部図書コーナー」があり、総合人間学部の教官が各自の専門分野に密着した推薦書を選定して配架しています。人文・社会系、数理系の新しいユニークなコレクションとなっています。国際文化学科のコーナなどには洋書も多数配架しています。これらの新刊書も勿論、全学の誰でも借り出すことができます。貸し出しを受けられる冊数は附属図書館とは別に学部生は5冊2週間、院生は10冊1ヶ月借り出せます。更に書庫には約20万冊の図書、雑誌があり、これらも学部生5冊2週間、院生30冊を1ヶ月以内で借り出

すことができます。

他に1階には視聴覚室があり、語学学習用のテープを聞くことができます。また、38ヵ国語の語学テープは一晩だけの館外借り出しができます。

学部としては一番若くても、歴史的には第三高等学校を継承しています。特殊な資料として舎密局から三高にいたる貴重な文書類を三高資料室に保管し、公開しています。

総合人間学部図書館の他に各研究室には約37万冊の研究用図書・雑誌があります。これらの図書の利用については、総合人間学部図書館の1階カウンターでご相談ください。総合人間学部研究室図書室では相互利用証を持参していただくと借り出しができる場所もありますので、総合人間学部以外の学部の方は所属なさっている部局の図書館(室)にご相談ください。

舎密局から第三高等学校、教養部、総合人間学部と変身し、また人間・環境学研究科とも密接な若い学部のユニークな蔵書を有効に利用してください。

(総合人間学部参考調査掛長 堤 美智子)